

(別紙3)

事業所名 グループホームほのぼの

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 3月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間	
1	19 21 48 49	新型コロナウイルスが第5類に移行されても、マスクの着用が個人判断になることなどを考えると、感染者が全国的に減り続けることは考えられず、まだまだ介護施設では外出や面会について、色々と制限されると予想される。外出が出来なくても、お出かけ疑似体験レクを企画したり、条件がある中でも面会の機会を増やしたりする必要がある。	外出した気分が味わえるお出かけ疑似体験レクを企画し、刺激のある日常を過ごして頂く。 面会の機会を増やし、家族との交流を図る。	レクリエーション委員会を中心に入居者様の希望や思い出の場所などを聞き取り、YouTubeやBGM、飾り付けなどで外出した気分を味わって頂く。 条件がある中でも面会の機会を持つことを家族様に促し、交流のある生活を送って頂く。	12ヶ月
2	6 7 8 36	忙しい時や余裕がない時などに、「座ってて」「待ってて」といった行動を制限するような声掛けをしているケースがある。なぜ、そのような行動に至ったのかを考え、相手に寄り添う対応が必要である。	スピーチロックを無くし、入居者様の言動が尊重される居心地の良い施設を目指す。	職員同士、注意し合えるような雰囲気を作り、注意されても指摘されたことに感謝出来るようにする。 待って欲しい状況の時には理由やどれくらいといった言葉を付け足し、相手に不安を与えないようにする。	12ヶ月
3	27	感染症の情報や入居者様の状態など、情報が常に変わるため、情報共有を行いながら正しくバージョンアップを図る必要がある。また、それらが現場できちんと実行されているかどうかを確認することで、事故や人為的ミス減らす必要がある。	入居者様の対応や施設内ルールにおいて、会議で決まった対応や受けた指示などが、現場で確実に行われているかお互いに確認し合い、事故やミスを減らす。	最新の情報や状態など、連絡ノート等を活用し情報共有を行う。 職員は伝達して終わりではなく、現場で実施されているかを確認したり、お互いに声を掛け合ったりして統一した対応が継続出来るようにする。 連携や確認作業を行う中で、環境や入居者様の状態変化に合わせて、的確な対応の見直しを都度行う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月